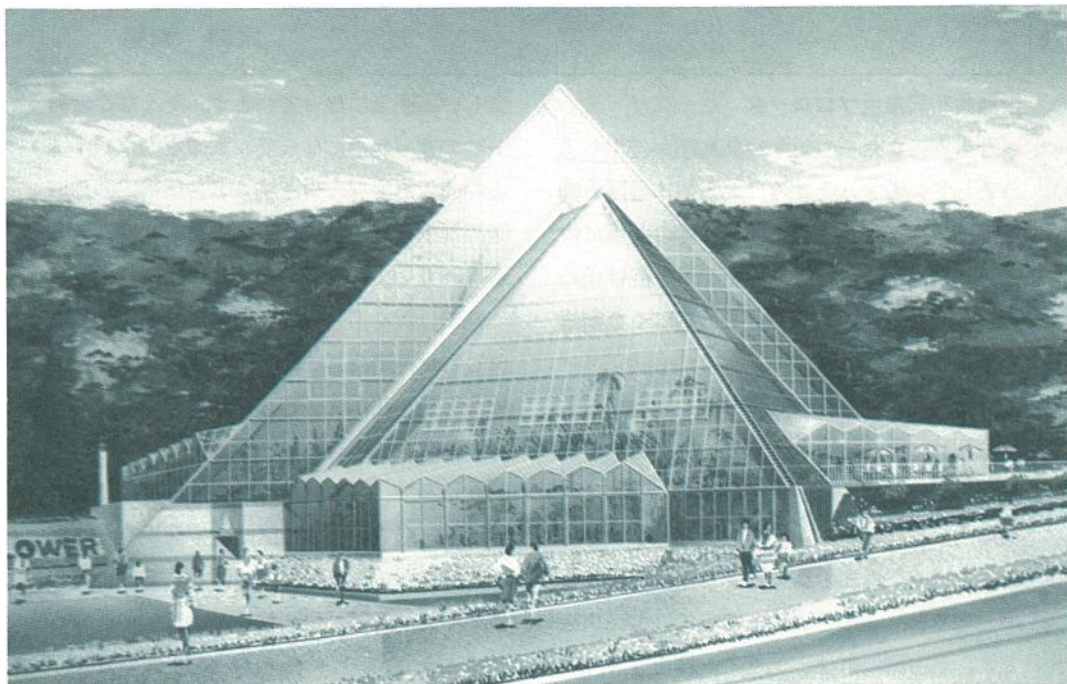


アルパックニュースレター

地域計画・建築研究所



(仮称)花の文化園(大阪府)が来年夏第1次オープン
の予定です。

生活の中に花を生かすヒントが見つかります。

アルパック ニュースレター もくじ

• やればできる手作りイベント	2
• 丹波町昨今	4
• 新しい出発と情報交流	6
• 新人紹介 京都事務所座談会	7
• カラオケも貸切で楽しむ時代	8
• 「研究学園都市セミナー」アルパック九州・セミナーの開催	9
• 論文「地域計画の計画方法論に関する基礎的考察 及び実証的研究について」	10
• 新刊旧刊書評紹介	11
• まちかど	12

NO. 37

やればできる手作りイベント

尾関 利勝

宝島共和国誕生プロローグ

今日日本にまた一つ新しい共和国が誕生しようとしています。ところは名古屋市港区の築地地区。発端は、世界デザイン博の会場に決まった地元が、どうこのイベントを受け止めるか、悩んだところから、この国づくり物語りがはじまりました。

全国的に市制施行百周年の記念イベントが行なわれています。名古屋でも、この7月15日から世界デザイン博覧会が始まりました。会場内の話題はマスコミにも登場しますから、皆さん良くご承知の事でしょうが、会場外の事となると、とんと話題になっていないようです。名古屋の町は、デザイン博をきっかけに見違えるように奇麗になってきました。この夏以後に名古屋に来られていない方は是非一度、デザイン博を見がてら、ついでに名古屋のまちをよくごらんになってください。できれば、昼・夜ともに見ていただきたいと思います。都市をデザインするプロの目から見ると、まだまだ未成熟・未経験から来る不十分さが目に付きますが、まち（主に公共空間）のデザインが大変清々しく、洗練された状態になってきました。とくに夜のまちがとても

楽しい雰囲気になっています。そんなことも一つのきっかけになって、大須と南京（中国）との商店街提携に引き続く名古屋第二の地域国際提携として、久屋大通とシャンゼリゼ大通（パリ）の提携がこの7月に結ばれました。

都市景観を市政の課題に掲げて約10年、あれこれ試行錯誤しながら、デザイン博と言う機会を得て花が咲き始めた状況です。

共和国誕生前の苦しみと悩み

ところで、名古屋港の背後地にあたる築地地区は、名古屋市の地区総合整備事業という面的なりニューアル対象地区として、再開発事業や共同建替、道路整備が従来から進められてきました。港の機能や物流手段の変化に伴って、かつての港町の賑いは見違えるほどに薄れ、地元の商業者、住民、港湾関係企業、行政ともに、まちの活性化が共通の課題になっていました。そこで行政はまず先行的に上記の地区総合整備事業に取り組み始めました。

こうした中で再開発地区の住民の勉強会がきっかけとなり、地区全体の住民・商業者が一体になって、役所任せだけでなく、自分達のまちづくりを考え、実行しようと言う意図

宝島宣言



パレード風景



のもとに、既存商店街組織や町内会組織の枠を超えて、まちづくりの会を結成しました。名称はポータウン21まちづくりの会と言います。その後、地域整備への提案活動や再開発事業の撤去工事を機会に始めたりサイクル・バザー、まちの美化運動として街路樹愛護会への参画、他都市の先進地事例視察などの活動を進めてきました。そんなまちづくりの会を今後どうしていこうか、役員だけでなくもっと若手の住民参加をどうしたらよいかなどと悩み始めた時にデザイン博がまちにやって来ることになりました。

たまたま岐阜未来博会期中で、岐阜の会場周辺の状況を伝え聞き、デザイン博会期中のマイカーの集中はどんなことになるのか、交通規制はどんなことになるのだろうか、参観客は来てもまちは素通りでゴミばかりが残るのでは、公衆便所はどうなるのか、など様々な不安がおき、岐阜の現地視察調査に行ったり、あれこれ悩み、議論し、行政に相談したりしました。

デザイン博に対して、被害者になるか、一つのチャンスとして利用し、自分達のまちづくりに役立てるか、の二者択一の条件の中で、ここで何もしなければ、この先10年何も出来ない、役所要望型のまちづくりではなく、住民の手作り実践型のまちづくりを実験するチャンスにしようと言うことから、市民が盛り上げるデザイン博協賛イベントを实行しようと言うことに落ち着きました。

共和国設立準備

さて実行段階になると、始めて2～3年の経験しか無い任意のまちづくりの会ですから、活動家もいない、お金も無い、バザー程度しかイベントの経験も無いの無い無い尽くし。やれるかどうか大きな不安がありました。とにかくイベントは若者の手でを合い言葉に、

これまでまちづくりの会に参加したことの無いような人達にも声を掛け合い、参加を呼び掛けて行きました。案ずるより産むがやすし。これまでのまちづくりと言ったテーマだけではなかなか集まりにくかった若手の商店経営者、二代目さん、地元企業の会社員、その友人など仲間の輪が思いの他に広がって行きました。イベント経験のある築地口商店街のメンバーを中心に実行委員会を結成、アイデアと構想の議論を煮詰め企画書を作成、地元関係団体や行政への協力要請を行い、何とか手作りイベントに着手する事ができました。

この中で、地区の愛称を港にちなんで宝島共和国とすること、イベントの内容は町を知ってもらい、歩いてもらう事をねらって、宝さがしとする事、当日には共和国設立として初代大統領を選出することなどの企画が決まりました。

この間いろいろと苦労ばなしもある訳ですが、デザイン博開催1週間後の土・日の2日間イベントを開催するところまでこぎつけました。このレポートを書いている時点から、後2日後に開催されます。ここまでくると後は当日のお天気次第。計画のほぼ80%は当初の目的を達成したと言えるでしょう。

汗を流した効果

金を出さず、頭(アイデア)を出さず、無ければ手を出し汗を出さずを合い言葉にメンバーの努力が積み重ねられていきました。実行前ですが予期せぬ成果が生まれています。

その成果の一つは手作りイベントと言うことで新聞、TV各社が何度もとりあげてくれたこと、もし広告を出したとすると何千万円の費用が必要です。例えばその効果の例をあげると、キャラクター募集の応募が県外からも有ったこと、ビジネスになると感じたのか広告代理店が営業にも来ました。勿論手作

りイベント、おまけに予算もない、当然広告代理店の出番は有りませんでした。また無関心だった人もマスコミ報道をとおして活動を認知してくれたこと、会員の実行に対する自信がわいてきたことなど計り知れない効果が生まれ、何よりも当初まちづくりの会の活動が役員だけの負担にたよっていた状態から、

若手の活動家が何人もみつかった事は最大の成果でした。まさに案ずるより産むがやすしいことわざどおりでした。後は目標100%達成のため当日のお天気を祈るばかりです。

金も出さず、汗も出さず、多少頭と口を出した立場からのレポートです。

(おぜき としかつ)

丹波町 昨今

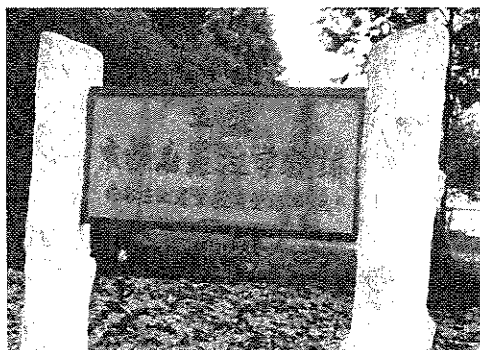
山田 泰造

昭和42年 夏

「〇月〇日、一行5名丹波町訪問。町長・議長や職員の出迎えを受ける。期待に満ちた顔色。」これは20年前の日記の冒頭です。旅装を解き、各自分担に従って作業にとりかかりました。私の主な任務は町の人の意見をよく聞くことです。夜、酒でも入れば思いがけない話題が次々と出てまいります。20年たった現在もなお昨日のこのように耳朶に残っています。

(1) 先輩は先取の気性に溢れていた

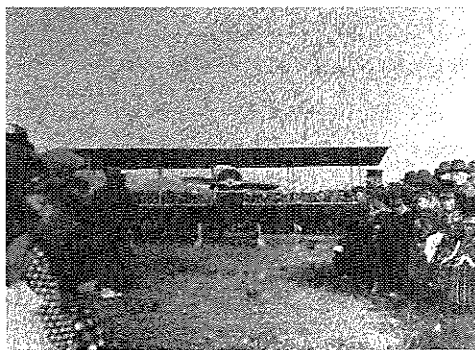
明治9年、札幌に農学校が出来た同じ年に、京都府はアメリカ人教師 ジェームス・ウィードを招いて、丹波町に京都府農牧学校をつくりました。今も国道9号線沿いに記念碑が目京都府農牧学校跡



につきます。札幌・駒場と共に日本農学教育三大発祥の地の一つです。ついで大正2年には京都競馬を須知に誘致し、大正13年淀に移転するまで興行が行われました。さらに驚くべきことに大正11年民間飛行場が開設され練習生の養成・宣伝飛行が行われたということです。これらのことが誇らしげに語りつがれています。

(2) 先輩の犯した過ち

明治32年、京都遷都100年記念事業の一つに京都・舞鶴間の鉄道敷設があり、43年に直通列車が走りました。ところが鉄道は町の中枢部から遠く外れた山間部を走っています。なぜこんなことになったのか、口々に出る言葉は意外でありました。汽車は赤痢やベスト民間飛行場開設



を運んで来て、町中大変なことになる。駅や線路は中心部から外れた所でないという意見が支配し、こうなった。宿場町として栄えた須知は以来長い沈滞と衰運の期間を経験したのです。先輩の選択が町に大きな禍根を残したことになる。二度とこんな過ちを繰返してはならないと熱心に時間のたつのも忘れて話かけてくれます。それは私達の計画を育みそだててゆく気持の表れと受け取ることができました。

平成元年 春

「〇月〇日、長い役人生活は終わった。これから始まる新生活を悔いのないものにしたい。」まづ最初に思い出すのが丹波町のことです。どうなっているか急に懐しくなり、京都府統計書第1頁「人口」の欄を見ました。長年の習性は自づとこんな動作に出てまいります。町の状況を示す指標はいくつもありますが、最も気になるのが人口の変化です。45年まで丹波町に設置していた建設事務所を次なる計画のため移転しました。私は次々に直面する事態の対応に忙殺され、町のことは気掛りではありましたが、次第に町へ足を運ぶことが少なくなっていました。今日久し振りに町の人口が増加していることを知り、目を見張りました。船井郡6町の人口は丹波町だけが増加、園部・八木町が変化なく、和知・瑞穂・日吉船井郡の人口

町が減少しています。なぜこうなったのか。丹波町は京都府の地勢からみて由良川水系に入ります。日本海沿岸地帯に属し、府は府北部地域に分類したこともあります。このような地理的条件で、人口増をもたらした原因はなにか。直接のきっかけとなった特別の理由が何処にあるのか。新しい私の最初の仕事はこれだと思い立ったのです。

平成元年 夏

JR園部駅を下車すると、その正面にJRバスが待っています。幸先よしと飛び乗り役場へ向いました。町役場で助役さんや課長さんから明快な解答が返ってまいりました。

(1) 交通体系の変化

須知の町は自動車交通の要衝の地になっていたのです。道路網が整備されるに従って、岡山から名古屋までが半日の行動圏内に入ってしまったのです。北陸と東海と近畿・中国を等距離で見渡せる立地条件が、時の流れと共に自然に輝き出したのです。企業誘致も45年頃からすこしづつ動き出します。最近では週2～3回は問合せがあるそうです。鉄道を自らの手で放棄した須知の町は、それに代るより大きな武器を今やっと手に入れかけたと言えましょう。その上先輩の犯した過ちとまで思っていた鉄道路線が、丹波町の人口増に大きな役割を果たしているのです。町の下山という駅は京都からの通勤限界点に位置してい

	丹波町	園部町	八木町	日吉町	瑞穂町	和知町
昭 45	7,489	14,837	10,551	7,040	6,353	6,219
50	7,613	14,827	10,620	6,684	6,006	5,762
55	8,423	14,848	10,802	6,634	5,906	5,383
60	8,499	14,971	10,624	6,310	5,716	4,872
63(推)	8,541	14,758	10,370	5,769	5,596	4,649
63/45	114.68	99.47	98.28	81.95	88.08	74.75

企業誘致（食品会社）



るのです。目敏い住宅業者は47年頃から京都市民を対象に住宅の供給を始めました。49年から61年で約450戸すでに入居しています。なお年々着実に増加してゆくでしょう。

(2) 企業誘致

47年頃から次第に企業が立地を始めました。町はソフト産業を中心に誘致する計画です。と同時に国道沿いに食品企業群を集め「食品

きんきょう 近況 きんきょう 近況 きんきょう 近況 きんきょう 近況 きんきょう 近況

新しい出発と情報交流

金井 萬造

前号で三輪会長から御案内申し上げました新体制の発足から2ヶ月がたちましたが色々な手続きなどで一日一日が過ぎてしまい、皆様方への御挨拶ができないまま過ぎたことをお詫び申し上げます。

私自身、近くで所員が「社長は」と言うとおもわず「三輪社長」と対応してしまい、自分の役割りの自覚も固まっていないことを反省している毎日です。

新体制に移り、グレーターアルパックを見通して、何を重点的にやろうかとじっと考えてみると、アルパック22年間にお付き合いいただいた皆様方の多いことに驚くとともに、その貴重さに頭が下がります。

今まで、古いお付き合いで御支援や暖かい御批判の声をお掛けいただいている方々を忘れ

と美味の町」として位置づけ、「グルメ街道」と名づけてイメージアップを図ろうとしています。さらに全国的にも例を見ないような画期的な方策を打出したのです。「5年間の固定資産税の減免措置のかわりに、その相当額を進出企業の従業員の宅地・住居の取得に寄与できるよう措置する」という町条例を施行したのです。殆んどの自治体は固定資産税の減免措置は実施しています。しかし丹波町は立地企業に対し、基幹従業員を丹波町に定着させ、地域住民の一員になってもらいたいという積極的な方針を打出したのです。この独創的な方策は多くの地方自治体の企業立地対策に大きな示唆を与えることになるでしょう。そして町の豊かな独創性が次々と新しい機軸をあみ出し、大輪の花を咲かせることになると確信するものです。（やまだ たいぞう）

ず、大切にしていけることがアルパックの原点であると痛感しています。

多くの方々との関係を大切にしていける上での人的交流、情報交流を活発にしていきたいと思っています。

この世の中で、多くの技術発達や情報交流が進み、情報が氾濫している状況でも、人と共に移動する情報は、いつの時代でも最も大切な情報であり、ますます、その価値が高まっているようです。

私自身、昨年10日間程入院し、情報から一定の距離をおき、情報量をコントロールできる時期がありましたが、本当に価値のある情報の大切さに気が付いた次第です。

それは、人と人の交流による情報交流であり、その場づくり、演出が大切と思いました。

まちづくりでも、同様で、人と人の出会い、交流の場づくりと運営が大切であり、今後ますます役割りを増していくものと思います。

それで、新しい体制になって、一つの大きな柱として、お付合いただいている古い方も比較的新しい方も、又これから若い力を発揮して広がりを求める中で出合う方々も含めて、交流といえるような色々な取組みや場づくりを大切にしたいと思っています。

情報交流の場づくりの事務局として、情報の受発信や結合の拠点として、時代の変化にふさわしいお手伝いをさせていただきますので、皆様方の御支援をお願い申し上げます。

今までも、知恵の「ため池」研究会などを続けさせていただいていますが、さらに多くの課題にチャレンジしようと思っています。

この7月には、ベイエリア時代に向けて、利用者の多くが市民となるであろうことを見通して、水辺への利用・計画への市民参加の視点に着目した日米セミナーを後援し、各界から70数名の御参加をいただきました。

これからも、色々なテーマ、例えば、産業・科学技術とまちづくりなどについて、歴史や制度、風土の異なるインターナショナルレベルでの交流を進めたいと念じています。

この9月からは、日本の地域振興をインターナショナルな視点からアプローチし、コンセプトづくりやイメージアップをはかる会社もスタートします。

色々な出会いと交流の場づくりに努力してまいりますので、皆様方の御支援を新体制にいただけますようお願い申し上げます。

(取締役社長 かない まんぞう)

新人紹介

京都事務所座談会

京都事務所には、4月に4人のニューフェイスが加わりました。今日は、座談会形式で新人紹介をさせていただきます。(編集部)
□社会人になっての感慨や、気持ちの変化み

たいなものはありますか。

木村 健 気構えという程大袈裟なものではありませんが、身だしなみに気を遣うようになりました。東北大学在学中はアメフトをやっていて、トレーナーにサンダルというスタイルでしたから。それが多少窮屈なくらいで仕事に関しては大体予想していた通りです。
□石井君はどうですか。入社翌日にいきなり徹夜という経験をされていますか。

石井 敏史 こんなものだろうな、と思っていましたから。しんどいのは承知のうできました。

□水谷くんはどうでしたか。

水谷 省三 学生時代(名古屋芸大)は、理想を追い求めていましたが、いざ自立してみると、仕事と生活のバランスをひしひしと感じます。

□中村さんは、橘女子大を卒業なさって、繊維関係の会社で経理を担当されていたそうですが、アルパックの感想はありますか。

中村 孝子 責任のある仕事 — という面でやりがいがあります。ただ、他の会社に比べて1人あたりの仕事量が多いことと、単にモノを売るのではなく情報を扱っているという点で、形が掴みにくい反面、お金の動きが面白いと思います。

□石井君は、京都産業大の経済学部出身ということで、どちらかというと畑違いの会社だ

左から 石井、木村、水谷、中村



ったと思いますが。

石井 かえてラクな気がします。現状では、仕事をこなせば来自分身の身につくようなことをさせて貰っていますから、たとえば銀行などでは、営業=成績みたいな所がありますでしょう。あと他に、外部の人とおつきあいが、よその会社では考えられない程いい経験になっていると思います。市役所の課長、部長クラスの方や、市長さんなど、話を聞いてためになるような人とお会いする場面が多いので。

全員 同感。

口水谷君の場合は、仕事の内容も、自分の進んできた道に沿っていると思うのですが。

水谷 基本的には、ランドスケープ・デザインということで、自ら望んだ道ですが、開発の全体像からディテールまで幅広いことができる反面、しなければならぬことが多く、足枷になったりしています。学生時代の甘い考えが吹き飛ばされてしまいました。

□他企業に就職した友人に較べて、出張が多いということはありませんか。アルパックでは地域に浸透させて業務を進めるという基本姿勢がありますが、大変ではありませんか。

木村 基本的に動くのが好きで、学生時代から帰省の度に関西を歩きまわったりしていましたし、何ともないです。人と競うのではなく、ゴーイング・マイ・ウェイでいきたい。

□その他に、今後仕事をしていく上での目標は。

中村 やっと全体の流れが見え始めてきたところですので、場当りのでなく、しっかり自分の位置を把握してから作業にかかるようにして、自分の時間を創っていきたい。最近、自分を忘れがちだという気がします。

全員 賛成。(口々に)もっと遊ぼう! マージャンにさそって下さい。今年の冬は残

業をへらしてスキーに行こう。みんなでスキーチームをつくらう!

カラオケも貸切で楽しむ時代

山田 龍雄

福岡県は飯塚市郊外の田園地帯の一角に突然、写真のようなコンテナが並んでいるのが目にとまり、さっそくのぞいてみました。

これが、今はやりのカラオケ専用の貸切部屋で、いわゆるカラオケキャビンというものでした。

室内に案内されるとまず、飲み物とスナックなどを注文し、カラオケの操作を教わり、後は自分たちで適当に楽しむという仕掛けになっています。また、団体用として30人収容可能なキャビンも用意されていました。

約2.5×5.0m程度の大きさのキャビン内は、床には厚手のカーペットが敷かれ、コー



カラオケキャビン



きんきょう 近況 きんきょう 近況 きんきょう 近況 きんきょう 近況 きんきょう 近況

ナーにはスポットライト付きミニステージも備えられており、外から見るより以外と豪華なものには驚かされました。ちなみにキャビンの値段は1台当り、設備(クーラー、TV、カラオケセット)込みで600~700万程度だそうです。

使用料金は、1キャビンに付き3時間で、昼の部(PM0:00~6:00)が500円、夜の部(PM6:00~AM2:00)が1,500円、団体用が4,500円となっており、今は、夏休みとあって昼の部は高校生の利用が多く、夜の部は、アベック、お年寄り、ファミリーと巾広い層が利用しているようです。ちなみに、この種のカラオケキャビンが、この地域一帯に現在、4カ所営業しており、日本人のカラオケ熱は、衰えるところか、益々盛んになるようです。
(やまだ たつお)

「研究学園都市セミナー」アル
バック九州・セミナーの開催

山辺 真一

いま、全国各地で、テクノポリスや学園都市を始めとした地域拠点づくり、計画・構想が行われています。九州においても、研究学園都市の事業や計画がいろいろ検討されています。

とくに九州では、アジア地域を対象として21世紀における九州地域の発展のためには、既存の学術研究集積の活性化や新たな産業構造への転換による、地域全体の活力の復活と産業の振興を図るといのが主たる目的になっています。しかし、より九州の特色を出すために、ソフトなネットワークづくりから始めたいと考えていますが、「一体学研都市とは何なのか」「研究所ってどうやってできるのか」等、知らないことがたくさんあります。そこで、この様々な疑問を少しでも勉強しよ

うということで、「研究学園都市セミナー」を始めた次第です。

第1回目は、飯沼和正氏にこれからの研究システムについて、6月12日に「基礎研究とヨコ型研究システム」というテーマで講演をお願いし、日本のこれまでの研究体制の弱点を克服するにはどうすれば良いのかということをお話していただきました。

第2回目は、7月21日に、大阪の千里にある「財団法人 大阪バイオサイエンス研究所」の児玉晃氏に、最先端の研究所の設立の経緯や研究運営の独特なシステムについて苦労話をして頂きました。

そして、第3回目は、後藤邦夫氏(桃山学院大学 教授)に「関西学研都市のコンセプト形成およびその成立の経過」というテーマで、関西学研都市の新しい都市づくりの視点について、8月11日に講演して頂きました。

いずれも、これから九州において学研都市を考えていくために、貴重な経験と示唆に富んだ内容でした。

なお、今後の予定は、下記の通りですが、これらのセミナーが九州での学研都市のあり方のための一助になれば幸いです。

9月8日 「筑波研究学園都市における産学官の研究交流」 河本 哲三氏
：(株)筑波コンソーシアム専務理事
9月28日 「サイエンスシティとしての学研都市」
大久保昌一氏：大阪大学 教授

講演の詳細については、当所までお気軽にご連絡下さい。(やまべ しんいち)

セミナー風景



論文『地域計画の計画方法論
に関する基礎的考察及び実証
的研究』について

杉原 五郎

はじめに

このたび、吉川和広京都大学教授のご指導を得て、上記のテーマで学位論文をとりまとめて京都大学に提出し、工学博士の学位を授与されました。ここで、論文の概要とともに論文提出に至る経緯などについて簡単にご報告させていただきますと思います。

論文の構成

今回の論文は、私自身が1974年より今日まで15年間にわたってアルバックにおいてプランニングコンサルタントとして実践してきたさまざまな業務を、地域計画の計画方法論という視点から研究論文としてとりまとめたものです。

本研究論文は、地域計画の計画方法論を研究テーマとし、3つのパート（編）から構成しました。

第1編では、地域及び地域計画概念について考察し、我が国における地域計画の歴史的発展過程及び欧米主要国（イギリス、アメリカ合衆国、西ドイツ）との比較研究により日本の地域計画の特質を明らかにするとともに、これらを踏まえて、地域計画の計画方法論研究の意義と課題を明確にし、あわせて独自の計画方法論を展開しています。

第2編では、地域総合計画の計画方法論を、計画の意義と課題、計画圏域の分析、地域構造の分析、計画論の構築の各視点から明らかにするとともに、これらを踏まえて、広域レベルの総合計画（広域総合計画）、都市域レベルの総合計画（都市域総合計画）、地区レベルの総合計画（地区総合計画）について計

画事例をとりあげ、それぞれの計画方法論に係る実証的な研究をおこなっています。

第3編では、交通施設計画の計画方法論を、交通計画の意義と課題、交通圏域の分析、交通特性の分析、交通計画論の構築の各視点から明らかにし、これらを踏まえて、広域レベルの交通施設計画（広域交通施設計画）、都市域レベルの交通施設計画（都市交通施設計画）、地区レベルの交通施設計画（地区交通施設計画）について計画事例をとりあげ、それぞれの計画方法論に係る実証的研究をおこなっています。

論文作成の舞台裏と今後の展望

正直なところ、コンサルタントの仕事しながら、これまでの仕事を一定の視点から総括するとともに、何か新しい視点を導入して研究論文としてまとめあげるという作業は、大変骨の折れることでした。論文作成に約3年ほどの時間を必要としましたが、最初の1年目は仮説とストーリーづくり、2年目は執筆及び指導教授による指導、3年目は予備審査・本審査・公聴会等の諸手続き、といったプロセスがありました。これらの論文作成過程を振り返ると、重い荷物を持ちながらあえぎあえぎ山登りをしてきたようにも思いますが、今は、厳しかった山登りを経てなんとか頂上を極めたというホッとした気持ちと、これまでの苦しさも忘れてまた新たな山をめざして登ってみたいという気持ちの2つが一緒になっています。いずれにしても、40代に足を踏み入れた年に、このような論文を作成したということの一つの区切りとして、これからも都市計画コンサルタントとして新しい領域を開拓できるように努力していきたいと考えています。

これまでいろいろ形で支えていただいた所内外の先輩や友人の方々に對して、この場を借りて感謝の意を表します。ありがとうございました。（すぎはら ごろう）

新刊旧刊書評紹介

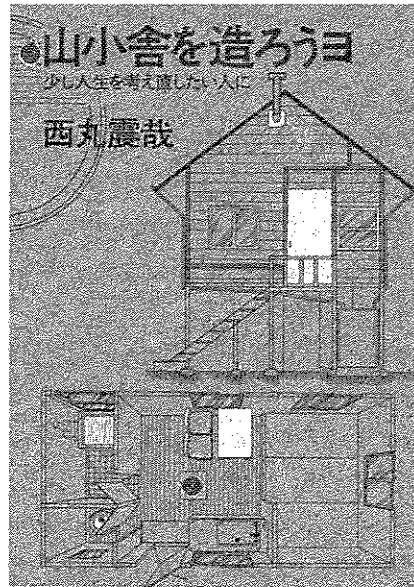
西丸震哉著 「山小舎を造ろうヨ」
中央公論社

紹介 藤田 武彦

この本には副題がついていて、「少し人生を考え直したい人に」となっており、読者に「われわれが心に描いている心暖まる山小舎というのは、一生をその中でチンマリと安楽に暮そうというシケタ空間ではない。そこを中心にして周囲にとび出していく基地、しかもそこにいけば、この世のくだらない雑事が攻め寄せてはこない城・・・」といったような山小舎をつくることを通じて、モノの考え方をかえることを要求する。文章はテキパキと小気味よく、結構きびしい本ではある。

ただし、「この本を読みつつけられる人は、すでにその資格はある」というから安心できる。それもそのはず、この本の大半は、半畳から12坪にかけて、いろんな大きさの山小舎（自分の城）での生活をこと細かに記述している。さらに、どこに山小舎を求めるべきか、2万5,000分の1の地形図上で詳しくのべている。この詳しさにずっと「なるほど、なるほど」とつぶやきながら、少年時代の山歩きなど頭にうかべることができる人はやはり余裕があって、人生を考え直せるだろう。

著者はまた、無理をすることを嫌っている。「山小舎を建ててそこで生活を楽しまうというとき、その山小舎へ行くのに生命を賭けるバカがどこにいるか」当然ではあるが、山小舎生活するのは少し変わった日常を味わうためであり、訓練するためじゃないという。先程述べた大きさのちがう山小舎でも、限られたスペースで極力便利さを追求している。現実的な本である。だからさらに感心する。



感心ついでにいえば、小さなスペースから大きなスペースにかけて、山小舎の空間で何ができるか（機能を発見すること）を、こんなにいろいろ考えさせてくれる本も少ない。多分、こうしたことを通じて、計画などという営みが成立しているだろうこともわかる。

著者は嫌がっているが、都会のまん中でも「山小舎」にあたるものはつくれるかもしれない。自分のモノをつくれれば、いろいろあっていいではないかという話で終わっている。

なお、この本の終りに「理科年表」の使い方が、実例入りで出ており著者の熟練の深さがうかがえてよかった。これで価格は1,200円である。

(ふじた たけひこ)

まちかど

たんが
旦過の花のれん

永田 伊津夫

北九州市小倉駅の南約600mのところ
に生鮮食品店舗が集まった有名な旦過市場
があります。

この市場には神嶽川と2本の幹線道路に
挟まれた三角地帯に約220の店がぎっしり
集まっています。現在、この市場も建物
が老朽化したりして再開発の話もいろ
いろと出てきています。

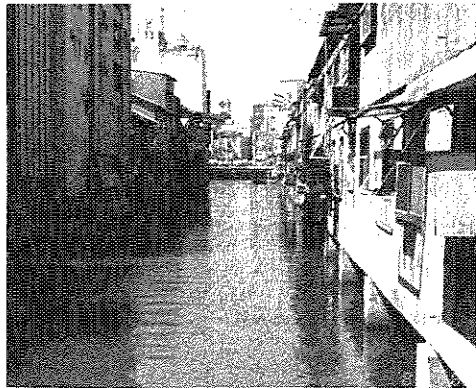
旦過とは「禅宗で修行僧が夕べに
来たりて朝に立つ」ということで、
雲水の宿泊することをいいますが、
この市場も近くにあった宗玄寺に
宿泊した雲水たちの早朝の旅立ちに
由来するとか、門前に雲水の一時宿
泊所である旦過寮があったことによ
るとかいわれています。

市場を出て、外に回ってみますと、
神嶽川沿いに写真のような花鉢をの
れんのように釣り下げ、しかも写真
の左端にみえるようにライトまで
取り付けられている民家を見つけま
した。殺風景な商店街の裏通りに
色どりを添えており、緑を身近に
という住む人の気持ちが感じられ
ます。こんなにブラ下げて、水を
やり手入れはどうしているのか、
少々気になり

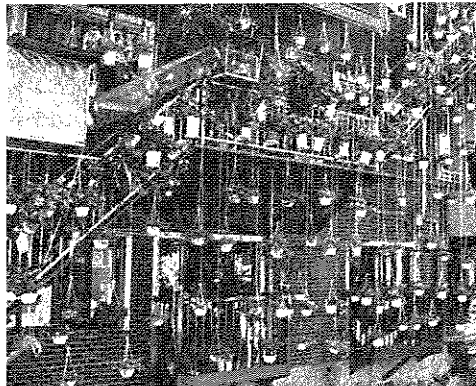
ました。旦過市場に行かれることが
ありましたら、ついでに裏側ものぞ
いてみて下さい。

(ながた いつお)

旦過市場の裏手にある神嶽川



神嶽川沿の民家にのれんのように
ブラ下げられた花鉢(左端にライ
トがみえる)



アルパック (株)地域計画・建築研究所

ARCHITECTS, REGIONAL PLANNERS & ASSOCIATES, KYOTO

本 社	〒600	京都市下京区四條通り高倉西人ル立売西町82 (大和銀行京都ビル8階)	TEL (075) 221-5132(代) FAX (075) 256-1764
大 阪 事 務 所	〒540	大阪市中央区石町1丁目1番1号 (天満橋千代田ビル2号館)	TEL (06) 942-5732(代) FAX (06) 941-7478
名 古 屋 事 務 所	〒460	名古屋市中区丸の内3丁目18番30号 (ツボウテビル2階)	TEL (052) 962-1224(代) FAX (052) 962-1225
東 京 事 務 所	〒402	東京都港区芝大門2-3-14 (一松ビル1号館402)	TEL (03) 437-3405(代) FAX (03) 437-3407
九 州 地 域 計 画 研 究 所	〒810	福岡市中央区天神1丁目15番1号 (日之出ビル6階)	TEL (092) 731-7671(代) FAX (092) 731-7673